

2021年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 溝部 昌子	職名 教授	学位 博士(保健学) 東京大学 2003年
----------	-------	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
看護技術 高齢者看護 循環器疾患の看護 国際看護	看護技術、循環器看護、血管看護、老年看護学 異文化対応能力 グラフィックレコーディング

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・看護師が行う下肢血流障害の評価、深部静脈血栓症予防対策 ・看護基礎教育における血管看護技術教育 ・血管看護教育における教材開発 ・異なる文化的背景をもつ患者への看護ケア ・外国につながる人々への看護におけるコミュニケーション ・グラフィックレコーディングのヘルスケアコミュニケーションへの活用 ・グラフィックレコーディングのスキル修得に関すること

担当授業科目
<ul style="list-style-type: none"> ・老年看護学概論(前期) ・老年看護学演習(前期) ・看護研究(前期) ・看護総合看護学演習(前期) ・看護総合看護学実習(通年) ・老年看護学実習I(通年) ・老年看護学方法論(後期) ・国際保健論(後期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【老年看護学概論】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① この科目の評価配点は、小テスト4回60%、レポート提出39%、その他1%で、小テストの平均点47.7点、レポート平均点33.6点で、最終評価は、平均81.2±6.0点、秀5名、優61名、良35名、可2名で、目標は概ね達成された。レポートは認知症やACPに関する課題で、資料の検索や情報の整理が不十分であったり、感想にとどまる、短絡的な意見の記述、多様な観点を考慮していないなど、思考判断、態度面で減点対象となる物があった。 ② 講義中に示した、Webサイトや文献、資料についてはリンクから学生が閲覧できるようにした。また、「自分なりに情報検索をした」「たくさんの資料が紹介されていて興味深い」という意見は、毎回終了時に行っている振り返りに記載があった。一方で、授業評価では、図書館や文献については利用しなかったと回答した人が9割近く、授業評価のデータ収集方法、回答の信憑性や意味付けに検討の余地があると考えている。 ③ ディクテーション機能や字幕機能を活用したが、高齢者の生活や看護について伝えようとしている叙情的な部分が遠隔授業でどの程度伝わるのか、昨年同様に気がかりな部分があったが、画面越しであっても教室で伝えるよりも近くに感じられる面もあるし、またその限界もあると考えている。情報の共有など遠隔での実施が効率よく効果的であったものは今後もそれを継続し、ドキュメンタリーなどの動画や文書の共有などは当事者の感情を理解する上で対面で行ったほうがよく、内容によって方法を選んで授業の質を高めたいと思う。シラバスを見直し、教科書教材を変更の作業を行った。

授業科目名【看護総合看護学演習・実習】

- ① 昨年度に引き続き、コロナ禍での活動に制約があったため、オンラインと対面で柔軟に進行できるようにした。今年度は高齢者の薬物療法を大きなテーマとして、分担し、複数の学生が複数のテーマを担当し、論文としてまとめていく作業を精力的に行った。最終的には、引用文献数 163、約 80 ページの成果報告書が完成した。
- ② 学年を通じて、グラフィックレコーディングの手法を用いたことで、調べる、整理する、プレゼンテーションする、繰り返し見る、記憶するという活動を通して、演習、実習、国家試験対策で、個人とグループでの学修が促進されたと感じた。
- ③ 科目の活動には直結しないが、就職活動と国家試験対策へのサポートは、4 月からオンラインでの集合指導、対面やメールでの個別指導などに精力的に取り組み、いずれも早い段階で着手し、結果を得ることができ、夏以降の学修が心理的にも落ち着いた状況で進められたことが良かった。

授業科目名【看護研究の基礎】

- ① この科目の評価配点は、個人課題レポート 20 点、グループワークの貢献度に関する記録 20 点、グループで提出する成果物 60 点で、個人の評価とグループの評価から構成されている。最終評価は、平均 76.7 ± 6.8 点、秀 0 人、優 33 人、良 56 人、可 0 + 2 名となった。個人課題レポートでは、研究プロセスと看護研究の意義に関する論述であったが、情報の整理が不十分であったり、結論に至っていなかったり、論述が不完全な学生が半数に及び、知識理解、思考判断での達成度は低めであり、そのことが秀の学生が出なかった背景である。グループワークの貢献度は、自己評価票と評価基準を予め提示し、毎時提出されたものをもとに教員が評定した。グループワークへの貢献は個々に様々な形があると考えられ、総合的に勘案して概ね達成されたと判断した。
- ② Google ドライブ内でのファイルの共有、form を利用したアンケート調査など遠隔授業の特徴を活かして、効率よく効果的に学修活動が行えたものとする。図書館経由のデータベースが利用しづらい状況に関しては、昨年度同様、WWW での一般公開情報でも遜色なく情報収集できるようなので、デメリットは少ないと感じた。
- ③ 学修活動の性質上、講義時間外でのグループワークが必要となったが、グループ間、個人間で取り組みには差があるようであった。15 回設定であり、講義時間内の作業時間は 10~30 分程度とし、講義及び指導時間を確保できたと考える。講義内でグループワーク作業時間を組み入れることを要望する声もあるが、そうすると 30 回設定で、学生にとって自由度はより低くなると思われるので、現行の時間配分で継続したいと考える。
- ④ 学生は、1 グループ 5 人、16 グループとし、調査研究を実施し、それにまつわる前後の作業を体験的に学んだ。学生が設定した研究テーマは、恋愛、睡眠、アルバイト、学修、健康状態などについてで、対象となる看護学生と自身についての疑問や興味について、資料を調べ、リサーチクエストとして設定し、調査により明らかになったことから方策を検討して提示するという一連の活動を、研究の知識や方法に基づいて実施できた。今後も学生が興味を持てるあるいは実感している問題について課題として調べる面白さや方法を学べるようにしていきたい。

授業科目名【老年看護学演習】

- ① この科目の評価配点は、看護技術課題のワークシート 40%、看護過程 40%、参加態度、その他の提出物 20%で、最終評価は、平均 84.0 ± 9.6 点、秀 12 名、優 64 名、良 12 名、可 4 名 + 2 名となった。14 回それぞれに一つ以上の提出物があり、地道で絶え間ない努力を必要とする科目であり、多くの学生はそれを達成できた結果となった。可の 4 名については、看護過程や老年看護学についての知識が全く不足している状態ではなく、時間管理、タスク管理、生活管理に努力の余地が多い。一方、秀となった学生は、すべての課題において完成度が高く、また修正や改善などの向上心が評価された結果となった。
- ② 授業の振り返り form で、一番印象に残ったこと、学びについて自由記載で尋ねているが、毎回ほとんどすべての学生が新たな発見や興味、学びの実感についてかなり具体的に記載しているが、授業評価における点数とこの科目における学生が実感している成長と乖離して一致していないのではないかと感じる。
- ③ 高齢者看護のアセスメントは、看護学的な視点と様々な評価スケールを用いること、生活者としての視点や家族を含んだケア、エンド・オブ・ライフケア等様々な状況を加味する必要があり、アセスメントにおいて 11 のすべての側面を選別したり省くことはできない。他の領域では割愛することもあると聞いているが、自身で課題に取り組み、学びに妥協を求めず看護学生としての自覚、責任感を高めて欲しいと考える。シラバスを見直し、教科書教材を変更の作業を行った。

授業科目名【老年看護方法論】

- ① 老年看護では、様々なツールを用いて患者の状態を評価し、ガイドラインを用いてケア方法を検討する

ことが多く、どの単元においてもエビデンスに基づいて看護を実践し評価するという原則に沿った授業を展開した。また、栄養や排泄など、どの単元においても、患者の生活歴や意向、環境によって目標や手段、方法が変わってくることも特徴的であり、知識の提供と同時に必ず説明するようにし、課題についても単なる情報整理でなく思考を伴う形式とした。

- ② 最終評価は、平均点 75.2 点、標準偏差 7.3、最高 92 点、最低 58 点であった。課題提出 7 回の配点は 35%、各回のフォーム提出は 15%であり、日常的な学修態度と課題の完成度が反映される結果となった。課題への取り組みは大変良く、資料の検索や情報の整理は行えているものの、筆記試験のみで見ると、平均点は 66 点で、記憶につながっていない。このため、知識の定着を意識した授業構成に変更し、この学生が次年度受ける 3 年生前期老年看護学演習で、既習事項も含めて新たな内容についても展開していく予定としている。このため、シラバスを見直し、教科書教材を変更の作業を行った。

授業科目名【国際保健論】

- ① 文化背景や病態を学生個々に設定し、対象にふさわしい栄養指導についてのグラフィックレコーディングを各自作成し、プレゼンテーションした。媒体としてのグラフィックレコーディングは「文化的安全を守る看護 食事にまつわる患者ケア」収録集としてまとめた。
- ② 4 回の課題提出において、学生の取り組みは熱心で、最終課題のグラフィックレコーディングについても、1 ヶ月以上前から課題を提示し、調べ学習や下書き、清書、プレゼンテーションも丁寧に行われており、欠席のなかった学生を優と評価できた。
- ③ 国際保健論の目的である、世界的な健康課題や、看護の対象へのアセスメントの視点や、様々な患者ケアサービスへの興味や関心を引き出し、人としてどのように対応できるかを調べ、資料を作成し、自らが当事者として対応を検討することにつながったと考える。

授業科目名【老年看護学実習 I】

- ① 学内と臨地実習の組み合わせで実習し、臨地実習では、担当患者の日常的な看護への参加、看護技術の見学・実施、患者とのコミュニケーション、継続看護の展開、豊かな生を支える看護計画、看護の文献的検討とプレゼンテーション、学内では誌上患者について看護過程の展開、倫理課題、従来の実習目標を達成できるよう再構成した。概ね、設定した課題については、内容的にも達成されていたと考える。看護過程の展開や、テーマに対するディスカッションは遠隔であっても従来のカンファレンスよりも発言機会や内容も充実する傾向があった。事例についての分析についても、文献検討や情報収集が捗り、充実した成果が得られた学生が多かった。本科目は進行中のため、最終評価ではないが、平均点は 70 点台後半となる見込みである。
- ② これまで 11 グループが実習したが、遅刻欠席がなく、取り組み姿勢は全体としてよかった。時期により臨地実習で直接患者に接することができなかったグループが 5 グループについては、実際の患者の動画や、看護師への質問、教員からの説明で補足した。実際に患者を対象に実習できた学生は、看護実践や記録、相談や指導を受けるなど全てにおいて積極的に臨んでおり、動機づけや意欲が非常に高かったと感じた。
- ③ 新型コロナウイルス感染症流行下において、新たに 2 医療施設と臨地実習施設として契約することができ、高齢者急性期、回復期、慢性期実習ができる環境が整った。このプロセスで、実習目標、実習方法を臨地実習指導者と共に再検討することができ、アフターコロナを見据えた新たな実習方法への移行過程を進められていると考える。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護系大学協議会	広報・出版委員会委員 2012-2014年	
日本血管外科学会	チーム医療推進委員会委員	2014年～現在に至る
日本血管看護研究会	代表世話人 研究会プログラム委員	2015年～現在に至る
日本リンパ浮腫治療学会	評議員 2016-	2016年～現在に至る
日本看護科学学会		1999年～現在に至る
日本看護管理学会	選挙管理委員会委員 2003-2005年	2003年～現在に至る
日本看護評価学会	編集委員会委員 2016年- 編集委員会委員長 2021年-	2011年～現在に至る
日本循環器看護学会	学術委員会ワーキンググループメンバ ー2018-2020年	2014年～現在に至る
日本看護理工学会		2016年～現在に至る

2021年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
【著書】 なし				
【学術論文】 なし				
【報告書】 国際保健論 「文化的安全を守る看護 食事にまつわる患者ケア」	共著	2022年2月 20日	西南女学院大学 国際保健論	国際保健論で、受講者がそれぞれ患者の病態や文化的背景を設定し、文化的安全を守りながら患者の食事療法を支援する看護、サポートについてグラフィックレコーディングを用いて示し、プレゼンテーションしたものを収録したもの 看護学科2年生受講者50名、 <u>溝部昌子</u>
令和3年度看護職の文化的能力の評価と能力開発・臨床応用に関する実証研究 コンテンツ報告書	共著	2022年2月 28日	千葉大学大学院看護学研究院	JSPS (A)「世界をリードするインバウンド医療展開に向けた看護国際化ガイドラインにおいて、1年間、4回のドイツシヤリテ医科大学との国際セミナーの記録をまとめたもの 野地有子、野崎章子、飯島佐知子、近藤真理、溝部昌子、小寺さやか、神島滋子、大友英子、浜崎美子、藤田比佐子、炭谷大輔、米田礼 A4判114ページ 担当箇所の逐語録と、グラフィックレコーディングの収載
nGlobe ガイドライン2022 病院と看護の国際化ガイドライン-患者中心の看護実践のために-	共著	2022年3月	千葉大学大学院看護学研究院	2017-2021に行った上記研究成果として、看護国際化ガイドラインとして12の項目を図入り資料として示したもの 野地有子、野崎章子、飯島佐知子、近藤真理、溝部昌子、小寺さやか、神島滋子、大友英子、浜崎美子、藤田比佐子、炭谷大輔、米田礼 A3両面リーフレット
グラフィックレコーディング活動参加者の主観的体験の検討-説得モデルに基づく自記式質問紙 (Web) 調査及びインタビュー調査より-	共著	2022年3月	西南女学院大学保健福祉学部保健福祉学研究所	グラフィックレコーディングを用いて学修した約200名を対象とした調査研究により、情報整理や理解のプロセスを明らかにし、ヘルスケアコミュニケーションへの活用可能性を検討するための基礎的研究の計画 <u>溝部昌子</u> 、吉原悦子、金子由里、野地有子

2021年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
看護総合演習・実習成果報告書 高齢者の薬物療法と看護	共著	2022年3月16日	西南女学院大学保健福祉学部看護学科溝部ゼミ	高齢者の薬物療法について、薬物動態、服薬管理能力、高齢者特有の薬物療法、副反応について整理し論文作成したものと、グラフィックレコーディングを用いて事例検討や薬物療法指導演を作成したものを論文集としてまとめた 磯崎春佳,小森遥,杉本愛弓,関瑞歩,長嶺恵里花,中村恵里香,溝部昌子 A4判 p78
【学会発表】 The difficulties experienced by foreign patients in accessing to the healthcare in Japan	共著	Aug 19-20,2021	The 3rd Technological Competency as Caring in the Health Sciences (Webinar)	日本の病院に入院した外国人患者を対象に、提供された医療の質についてインタビュー調査を行った。患者が体験した問題は、医療従事者との言語的障壁、通訳を準備しなければならないこと、症状に対する注意が低下していること、インフォームドコンセントが不足していること、日本人患者への対応と異なること、保険の確認までの間診療が保留となることの6つに分類された。 Sayaka KOTERA, Satoko UENO, Ariko NOJI, Mari KONDO, Sachiko IJIMA, Akiko MIZOBE, Hisako FUJITA, Eiko OTOMO, Yoshiko HAMASAKI
看護管理に活かす看護国際化ガイドラインの創出：国際標準と看護職の経験知の集約から	共著	2021年8月29日	第25回日本看護管理学会学術集会（ハイブリット於：横浜）	国際化ガイドラインとして示した12項目について、参加者のFGDで意見を交換した。 1文化安全、2職員構成、3研修、4多言語支援、5通訳の能力査定、6文化言語の情報収集、7内部評価、8苦情解決プロセス、9外国人コミュニティ、10文化対応、11食事の配慮、12宗教上の配慮 野地有子,飯島佐知子,溝部昌子,小寺さやか,近藤麻理,野崎章子,小林康司,浜崎美子,大友英子,別府佳代子

2021年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>【学会発表】のつづき</p> <p>学生の実習レポートからみる施設入所高齢者がライフストーリーを語る意義-各施設にける学生の捉え方の特徴-</p>	共著	2021年9月29日	第52回日本看護学会学術集会(Webinar)	<p>老年看護学実習における施設入所高齢者へのライフストーリー聴取で学生が得た学びを実習レポートからテキストマイニングにより分析したところ、高齢者のアイデンティティの強化、自己肯定感の強化、生活の活性化や維持につながると捉えたことが分かった</p> <p>吉原悦子,金子由里,丸山泰子,溝部昌子</p>
<p>Nursing Strategies in a Multicultural Environment Ongoing Japan-Germany Online Case Study</p>	共著	2021年10月21日	The 13th International Nursing Conference2021 (poster)	<p>日本-ドイツ間で行っている看護における多文化対応セミナーでの事例検討について整理したもの。1 日本の婦人科診察におけるカーテンの使用、2 匂いが広がる食べ物の持ち込みや利用、3 文化に則った葬送儀礼への対応は、過去の調査研究から類型化された外国人患者の対応で困難と示された、生と死に関するもの、医療的処置に関するもの、生活に関するものから一つずつ代表する事例を選定した。互いの国での経験を共有し、組織的対応、個人的対応について検討した。</p> <p>Ariko Noji, Ute Siebert, Mari Kondo, Akiko Mizobe, Sachiko Iijima, Sayaka Kotera, Akiko Nosaki, Eiko Otomo, Yoshiko Hamasaki, Shigeko Kamishima, Hisako Fujita</p>
<p>Nightingale Challenge on International Collaborative Education for the Development of Young Nurse Global</p>	共著	2021年11月	ICN Congress 2021(Webinar)	<p>日本の千葉大学とドイツのシャリテ医科大学が共同で行っている看護の国際化研修プログラムを COVID-19 パンデミックにおいて、オンラインでリアルタイムの研修を継続的に実施してきた成果について報告したもの</p> <p>Ariko Noji, Hisako Fujita1, Mari Kondo, Sachiko Iijima, Sayaka Kotera, Akiko Mizobe, and nGlobe</p>

2021年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>【学会発表】のつづき</p> <p>個別性のある看護尺度日本語版 (J-ICS) の信頼性と妥当性の検討</p>	<p>共著</p>	<p>2020年12月</p>	<p>第41回 日本看護科学学会 (横浜 ハイブリット)</p>	<p>医療の質の評価のうち、患者が入院中に個別性のある看護を受けたかについての視点が注目されており、patient-reported experience measures 日本語版の計量心理学的検討を行った。クワンク $\alpha 0.86$ であり、HCHAPS との基準関連妥当性も確認された。</p> <p>飯島佐知子,松岡光,野地有子,近藤麻理,小寺さやか,溝部昌子,藤田比左子,小山内泰代,池亀俊美,塚本美晴,武田智子,大嶺千代美,須永桂子,今麗子,鈴木千晶,内藤俊夫,幅下貞美,岡美穂,三星彩香,小島友紀,坂美恵子,中村仁美,太田有香</p>

2021年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
【招聘講演・講師】				
COVI-19 の経験が方向付ける新しい看護教育の姿-看護教育と新人教育にできることを考える-	単著	2021年5月19日	第6回日本血管看護研究会特別講演3,名古屋 (Webinar)	溝部昌子 第6回日本血管看護研究会抄録集
Webinar 事例2 「カリカリのトースト」事例提示、グラフィックレコーダー	共著	2021年7月17日	nGlobe 交流スタディ 2021 多文化環境と看護ケア ドイツとの交流セミナー第2回	nGlobe メンバー 溝部昌子 令和3年度看護職の文化的能力の評価と能力開発・臨床応用に関する実証研究 コンテンツ報告書
新型コロナウイルス感染症流行下における看護基礎教育課程での対応と課題	共著	2021年9月16日	2021年度第2回西南女学院大学FD研修会	保健福祉学部看護学科教員, 溝部昌子
深部静脈血栓症の発生機序とリスク要因ーポケットエコーの活用を前提としてー	単著	2021年9月18日	日本血管看護研究会 第1回 Zoom 勉強会	溝部昌子
看護国際化ガイドライン試作版 座長、グラフィックレコーダー	共著	2021年9月18日	nGlobe 交流スタディ 2021 多文化環境と看護ケア ドイツとの交流セミナー第3回	nGlobe メンバー 溝部昌子 令和3年度看護職の文化的能力の評価と能力開発・臨床応用に関する実証研究 コンテンツ報告書
グラフィックレコーディングの活用による学修効果への影響の検討	共著	2022年3月24日	2021年度保健福祉学研究所研究報告会	溝部昌子,吉原悦子,金子由里,野地有子

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
「世界をリードするインバウンド医療展開に向けた看護国際化ガイドライン (17H01607)	文部科学省科学研究費補助金 基盤 (A) (H29-33)	代表：野地有子 (千葉大学) 研究分担者	分担研究者 200,000円 (R3)
看護師による POCUS 活用に関する研究-DVT 予防対策と安全なケアへの効果-(20H03990)	文部科学省科学研究費補助金 基盤 (B)	代表：○溝部昌子 (FY2020-2024)	910,000円 (R3)

2021年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）				
(2) 個人研究				
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考	
グラフィックレコーディングの活用による学修効果への影響の検討	西南女学院大学保健福祉学部附属研究所研究費	141,000円		

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期間等
千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター	共同研究員	2015年～1年毎に継続更新中 研究会議出席 8回 セミナー主催、運営4回
日本血管看護研究会	代表世話人 学術集会主催 学術集会プログラム委員	2015年～ 2015年～毎年 2015年～毎年
西南女学院大学 認定看護管理者教育課程	教育運営委員 検討委員	2018年度より ファーストレベル開講式出席 運営会議出席 3回
日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員	2020年12月1日～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流委員会委員 ・紀要委員会委員 ・看護学科1年生アドバイザー ・看護学科研究推進委員会委員 ・研修会「岸智子先生とグラフィックレコーディングしよう」（2022年2月22日）実行委員長